

# かしら石

第101号

日本キリスト教団  
福岡女学院教会  
牧師 三ツ本武仁  
編集 広報委員会

## 『飼い葉桶の中の救い主』

三ツ本 武仁 牧師

あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。

(ルカによる福音書 二章一二節)

生まれたばかりのイエスさまが寝かされた飼い葉桶。聖書で「飼い葉」とは、本来、貧しさや惨めさ、さらには汚れを象徴する言葉でした。誰かが誰にも見せることのできない「心の飼い葉桶」を持っているのではないのでしょうか？ 狭い貧しい心、悲しい惨めな心、さらには罪に汚れた心を。けれども、救い主はその飼い葉桶のただ中に来てくださったのです(一二節)。

マリアは羊飼いたちから天使たちの言葉を伝えられると、「これらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らし」(二九節)ました。主イエスを身ごもってからマリアの生活は激変しました。マリアのこの一年あまりの

歳月は、本当に大変な年月だったでしょう。辛いこともあったに違いないのです。しかし、マリアが「思い巡らし」ということは、ここでようやく一息ついて静かに自分の身に起こったことを振り返る時間を持てたということではないでしょうか。そして「ああ、神さまは本当に私と共にいてくださったのだ」と納得することができたのではないのでしょうか。「すべて心に納めて」というのは、

これまでの自分の身に起こった出来事の意味を心の奥深くで一つ一つなぞきながら納得することができたということでしょう。マリアの心によくやく平安がもたらされたのです。私は十数年前から毎日、短い日記

をつけるようになりました。毎年一年の終わりにその日記をパラパラとめくりながら一年を振り返ります。すると、忘れていた辛かったことなども思い出されて「あの時はしんどかったな」などと思うわけですが、しかしまた、思ってもみなかったような慰めがあちこちに用意されていたことにも気づかされるのです。マリアとヨセフのもとに思いがけず羊飼いたちが駆けつけて、天使の言葉を伝えてくれたように、私が悩み苦しんでいたときも、ふと励ましや慰めの言葉をかけてくれた家族や人々があつたことを思い起こし感謝に満たされるのです。

クリスマスを迎える時期は、一年を終える時に重なります。今年は皆さんにとってどのような一年だったでしょうか？ なかには思い出すのも辛い悲しい一年であつた方もあるでしょう。けれども神さまは、あなたの人生に必ず共にいてくださって、何らかのかたちで慰めと励ましを与えてくださり、守り導いてくださっています。飼い葉桶の中の救い主。その恵みに感謝して、この一年をゆつくりと振り返りながら、新しい年に向かって希望をもって共に歩んでいきましょう。